

mmc ニュース

MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行 明治大学マスコミクラブ
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学広報部内 MMC事務局
 電話 03-3296-4082
 FAX 03-3296-4087
 発行人 木村 武
 編集人 大高 佳一

MMCの組織改革&審議 1月26日に2007年総会

2007年の新年総会を左記の通り開催いたします。今回の総会は役員改選期にあたり、MMCの各種活動のさらなる充実とマスコミ就活研究会(仮称)の創設に向けて、大幅な組織改革が提議される予定です。万障御繰り合わせの上ご出席いただきたく、宜しくお願い申し上げます。

- 日時：1月26日 金曜日
18時〜20時30分
・受付17時30分
・総会18時
・懇親会18時30分
- 会場：駿河台・明治大学
リパティタワー123階
「紫紺・燦」
- 会費：1万円
(年会費4千円含む)
- 日時：1月26日 金曜日
18時〜20時30分
※同封の返信ハガキで出欠をご連絡ください。
- 会場：駿河台・明治大学
リパティタワー123階
「紫紺・燦」
- 郵便振替口座・記号番号
00130041762631
- 加入者名
明治大学マスコミクラブ



2006年のサマーパーティー



MMC明治大学マスコミクラブの2006年活動に注いでいた皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。おかげさまで、MM

今年で10年目。そんな節目を祝福してくれるかのように、全7回で2000人近くの学生が参加する状況でした。

スコミ界にあえて挑戦しようという後輩諸君の意欲に驚き、かつてない手ごたえを覚えました。同時にまた、一層重くなってきた責任



MMC会長 木村 武

マスコミ研究室と一体で マスコミ就活研究会(仮称)を

Cは2007年に新たな第一歩を踏み出します。
 一人でも多くの後輩をわれらがマスコミ界にを合言葉に推進してまいりました就職セミナーも

会場のリパティホールは、先輩の熱意を圧倒するほどの熱気が充満。就職戦線が売り手市場に転じたといわれる中で、難関であるがゆえに敬遠され続けてきたマ

決意も新たにしました。決意を感じずにはいられません。そして、「2007年ももっと後輩の期待に応え、もっと母校に恩返ししなければならぬ」と

マスコミ研究室は、実に30期にわたって後輩への就職活動講座を積み重ね、数多の人材をマスコミ各界に送り出してきました。その内外に誇れるノウハウと一段と充実した先輩講師陣で、就職セミナー

の充実とともに、2007年からマスコミ就活研究会(仮称)をスタートさせるべく準備を始めております。さらに、母校の広報などの「恩返し」活動にも積極的に協力させていただきます。

群れることを嫌うマスコミ人はやもすれば孤高を好み、てんでんばらばらだともいわれます。しかし、一方でマスコミ界に明治大学出身者が一人でも多く存在することがどれほど意味のあることかを知っています。大同団結は母校愛の賜物です。新たな第一歩を大きな第一歩に!

みなさまのなご一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

2006年度のMMC マスコミ就職セミナー

〈駿河台・明大リパティホール〉

- 6月16日「全体」330名
〈特別対談〉
加藤正俊・日本テレビ
大林龍彦・共同テレビジョン
〈講師〉
宮本恭一・BS-i
慶田久幸・産経新聞社
田中裕士・文藝春秋
和田哲郎・I&SBBDO
大林龍彦・共同テレビジョン
〈司会〉
斎藤柳光・日刊スポーツ新聞社
- 6月23日「アナウンサー」160名
〈講師〉
日高 充・テレビ東京
飯村真一・テレビ朝日
寺澤敏行・NHK
矢島 学・日本テレビ
〈司会〉
松永二三男・日本テレビ
- 6月30日「放送」200名
塩野弥千夫・日本テレビ
小松勇介・フジテレビ
山川英一郎・テレビ朝日
国見太郎・NHK
熊谷正樹・テレビ東京
大谷正美・TBS ラジオ
〈司会〉
倉林敦夫・テレビ朝日
- 7月6日「出版」300名
〈講師〉
土江英明・ダイヤモンド社
後藤千鶴子・小学館
米澤仁次・光文社
古賀義章・講談社
瀧口 宏・集英社
山室秀之・講談社
鈴木一人・光文社
浜本邦生・小学館
音田 笑・集英社
〈司会〉
田中裕士・文藝春秋
- 10月5日「広告」420名
〈講師〉
吉井章夫・アサツー ディ・ケイ
三ツ谷明子・グレイワールドワイド
野中 剛・東急エージェンシー
石原晋平・アサツー ディ・ケイ
佐久間英彰・博報堂
丸田 淳・SPI
〈司会〉
和田哲郎・I&SBBDO
- 10月12日「新聞」160名
〈特別講演〉
鈴木敦秋・読売新聞社
〈講師〉
慶田久幸・産経新聞社
古満美千子・朝日新聞社
黒木俊行・毎日新聞社
〈司会〉
大串英明・産経新聞社
- 10月19日「制作エンター
テインメント」370名
〈講師〉
惣部 潔・テレビ朝日映像
平石浩章・NTV 映像センター
多田潤一朗・東宝
黒田英喜・エイベックス・
エンタテインメント
林部宏子・ホリプロ
〈司会〉
大林龍彦・共同テレビジョン

講師陣ますます充実！

マスコミ就職セミナー大盛況

「明大生を沢山マスコミに送り込もう」。単純な動機からOBが手弁当でマスコミ就職セミナーを始めたのが10年前、不肖、話下手の私も講師を買って出た。当初、学生の数も少なかったが、今年度は全体、アナウンサー、放送、広告、新聞、出版、新聞、制作・エ

告、新聞、出版、新聞、制作・エ

ンターテインメントの7部門で2000人もの学生が集うMMCのビッグイベントに成長した。

年々、講師陣も充実、一線で活躍している先輩の遠慮のない叱咤は全体、アナウンサー、放送、広

業界の動き等、現場からの生の話は、学生たちのマスコミの仕事に対する理解を深めさせ、業界への就職を誘う大きな要因となっているようだ。セミナーの壇上で、マスコミ就職内定者の報告が増えてきたのも嬉しいことである。

折りしも、我々の実績に対して、大学側からの注目度も高まってきた。「マスコミの明治」を目指して我々の努力は続く。(阿部剛巳・67年商II MMC副理事長)

会員寄稿 自由の塔 自由の殿堂 Liberty Tower & Hall

「コ」縁」を大切に

フリーアナ 鶴飼 一嘉 (77年・法)

MMC会員の皆様こんにちは！
サマービバパーティーで司会をさせて頂いたフリーアナウンサーの鶴飼一嘉でございます。



お喋りの仕事をするようになって、今年で10年を迎えたのですが、実は私40歳を過ぎてからお喋りの世界に入った変わり者で、まさか10年持つとは当の本人も考えていませんでした。その無謀とも思える挑戦が何とか形になったのも、殆ど知り合いのいないマスコミの世界で、お仕事をいただけるようになったのも、いろんな方との出会いに尽きると思っています。

お喋りの仕事をするようになって、今年で10年を迎えたのですが、実は私40歳を過ぎてからお喋りの世界に入った変わり者で、まさか10年持つとは当の本人も考えていませんでした。その無謀とも思える挑戦が何とか形になったのも、殆ど知り合いのいないマスコミの世界で、お仕事をいただけるようになったのも、いろんな方との出会いに尽きると思っています。

最近何かと「コ」縁」を大切に

陶芸家 武内 裕 (86年・法)

これからも人様との「出会い・ご縁」を大切に、精一杯お喋りの仕事に邁進したいと思っています。

数年前にテレビで島田紳助氏が「お金のために仕事をしているのではない。この仕事をしたらいくなる、なんて思っていたら、



いい仕事なんてできない」と言っているのを聞いて、「まさにその通り」だと思った。島田氏とは面識はないが、高校の先輩ということもあって、氏の司会する番組はまあまあよく見ていた。

私はいつもいい仕事をして得られるものは、一人であり、二に信用であると思っているが、実際に個展の時など、多くの人に応援していただいているし、全ておまかせのな仕事も結構させてもらっている。「まさにその通り」であり、ありがたいことだと思ふ。

ところが数日前、またテレビで、現代美術アーティストの村上隆氏の特集をやっていて、村上氏の著書の中の一文が紹介されたのを見

て、「あれっ？」と思ってしまった。その一文は「芸術家も商人ですから。」という文句であった。「まあ、そうだけ」とは思っても、両手を挙げて賛成とはいえない。しかし、「お金のために仕事をしているんじゃない」なんて言葉が言い訳にしか思えなくなってくるし、困ったことです。ただ両氏とも、道は違えど、かなり有能に仕事をされていると思うし、ストレートに来るか、少し遠回りをするかの違いで、二人ともかなり稼いでいるのは間違いない。

まあ、頑張るしかないのかなあと思う。何を頑張るか、それはいろいろ頑張るのである。でも、頑張っているか、頑張っていないかの判断というのは、自分がするものじゃなく、周りの人がするものだから、もう我武者羅です。

あれこれ迷っていても、四月の個展が迫ってきている。私は芸術家という意識は殆ど無く、工芸作家だと思っているが、芸術的な要素も必要だと思う。まあ、色々なエキスを織り交せて、作品は出来るものだから、まあいいか。でもどちらかというところ、お金は二の次、三の次かなあ。あまり目先の欲に

笑いのツボを刺激

漫画家 小豆だるま (99年・文)

小豆だるま(コマダマルマ)と申します。私は卒業後、都内の高校で国語教師をしましたが、子供の頃から好きだった絵を通して人を笑わせたり楽しませたいという気持ち捨てきれず、夜間イラスト学校に通い、2000年より仕事としての活動を開始しました。現在は、女性誌や書籍・広告を中心に活動、コミカル時にブラッシュアップイラストや漫画を提供しています。また、今年は児童向けに書籍の執筆にも挑戦しました。



私はユーモア第一主義のイラストレーター&漫画家です。絵や漫画を通して、もっともっと沢山の人の笑いのツボを刺激していきたいと思ひ、日々精進しています。小豆の絵はここで見られる！

http://www.ob.ne.jp/~komameda/

マスコミ就職セミナー 講師陣からのメッセージ

2006年度のMMCマスコミ就職セミナー講師の皆さんから、現役学生とMMC会員に向けて、熱いメッセージが届きました。

「顔」

テレビ朝日

倉林 敦夫 (81年・法)



最近、大人の顔について考える。古い写真を見ると昭和30年代、20歳の学生の顔は今はと違、もう少し老けた顔だった。これが明治・大正時代ともなると、30歳位に見える。それが今では15歳位の顔をしている。生活習慣の違いばかり

ではないだろう。私なりの結論は「自立への欲望」の差異だと思。自ら切り開き、生きて行かなければという思いの差だと。 マスコミの世界に職を求める学生にアドバイスするとすれば、今の社会に対し「自分で考え、判断して行く事」が大切だと言。判断する「価値観を持つためには、教養も必要になる。雑学も大切な友人との議論も役立つ。 25年前。私はマスコミ研究室に在籍し、意気投合した何人かと、何かにつけ議論をした。「原発のは非」「や」「天皇制」「憲法9条」について口角を飛ばしていた記憶がある。自分なりの考え方や価値観を披瀝するには、濫読もした

し、新聞も(朝日から産経まで)隅々まで毎日読んだ。徒手空拳だったが、とにかく何が世の中大切かを判断したかった。研究室の指導OBにも議論を挑みかかった。仲間たちも含め、そんな思想的自立に飢えていたのだと思う。 六大学に入学した以上、東大も早稲田もないのだ。明治であることに誇りを持ってよい。どこ出身かでは無く、君が社会への関心をどれだけ持ち、自立的に判断していくための時間をどれだけ費やしているかに勝負が掛かっている。価値観が無ければ表現者になれないのだから。

マスコミへの就職は一見、競争力が高そうに見えるが、大半は記念受験で、底の浅いライバルがほとんどだ。君がいたずらに時間を費やさず、社会的視野を身に付けるとき、内定への切符は高い確度で握れているだろう。その時、きっと君の顔つきは年齢に相応しいものとなっているに違いない。

やりたいから挑戦!

フジテレビジョン

小松 勇介 (90年・法)

今年、初めて「MMC就職セミナー」の講師として参加しました。駿河台の校舎に行ったのも久しぶりでしたが、就職活動に奮闘している学生の皆さんと、直に話している機会もとても新鮮でした。そ



の後、多くの学生から個別相談を受け、その内容から、これからマスコミを目指す方々に、私なりのアドバイスをしたいと思います。「どうしたら、フジテレビに入れますか?」一番よく聞かれる質問です。フジテレビに就職を目指す学生なら思わず聞きたくなる質問でしょう。確かに気持ちは分かります。しかしながら「こうし

たら受かる!」という必勝法は残念ながらありません。私自身も分りません。フジテレビの就職試験は、ある一定の点数を越えれば合格するというものではありません。数多くの受験者の中から「コイツはいいヤツだな!」思わせることで勝ち抜くしかありません。 それでは、どうしたら魅力を感じてもらえるのでしょうか?まず、大事な事は「フジテレビで何の仕事をしたいか!」明確で強い意志を持つにすることだと思。 「職種に関する企業研究」という堅苦しい勉強ではありません。「ドラマが作りたい!」とか「みんなが爆笑するバラエティ番組を作りたい!」とか「報道記者になりたい!」という熱望を持って、挑戦して欲しいのです。子供の時

何を伝えたいのか

日本テレビ

加藤 正俊 (92年・政経)

今年、初めてマスコミ就職セミナーに参加し、現役の学生たちの熱気を肌で感じさせていただきました。同時に、自身の就職活動時代、特にマスコミ研究室を思い出しました。今の自分があるのは、間違いなくあのころの経験があるからです。作文や模擬面接はもちろん、一番大きかったのはマスコミの最前線で仕事をしている先輩たちの声を生で聞いたことでした。その記憶が強いので、同じ立場に立った自分が先輩たちに語ることは意味があると思、セミナーに参加させていただきました。



マスコミ塚 やっくん登場!

テレビ朝日

山川 英一郎 (94年・商)

コレよりMMC明治大学マスコミクラブ緊急集会を始める! 先日メンバーのCowキに「テレビ朝」ってどこなところって聞いたら、「あの、恥ずかしがりやのこ

残された時間で少しでも「経験」をし、ライバルに差をつけてほしい。精神的(スピリチュアル的)につらい時もあるかもしれないが、そのようなときは「オーラの泉」でも見てなごんでくれ。 チョット、チョット チョット! マスコミは楽しいぞ! 次はMMC明治大学マスコミクラブ通常集会で会おう! またな!

ことです。マスコミを目指すならさらにもう一つ、「どうして」それをやりたいのかを、はっきりと意識して臨んでもらいたい。と言うより、自分の中でその答えがなければ受けてはいけないと私は思います。 マスコミの仕事は、世の中にかを「伝える」仕事です。そして、世の中を動かす力があります。だからこそ、伝えるものには責任があります。自分は何を、どうして伝えたいのか、その意識を明確に持っている者だけが、本気で目指してもらいたいと思っています。

出会い

NHK

国見太郎 (95年・文)

最近NHKを志望する明大生が減っている聞き、この場をお借りして仕事の魅力を宣伝します。

私が今、担当している番組は「探検ロマン世界遺産」(毎週土曜日・夜8時)と言います。レポーターと共に世界各地の遺産を紹介する企画です。私はこれまでヨルダンのペトラ遺跡、タイのスコタイ遺跡、メキシコのチチェン・イツァ遺跡、ベルギーのグラン・プラス広場取材しました。

その中で感じたのは、人との「出会い」。こそ人生の財産という事です。タイでは母親の幸せの



ために出家した若い僧侶と出会いました。息子の出家は母の大きな「徳」になるのです。夫との離婚や父の介護に疲れ果てながら息子の出家を喜ぶ母の笑顔が忘れられません。ヨルダンでは自分の国に失望しつつもイスラムの教えのすばらしさに目を輝かせる若者と出会いました。

情報化社会の今、テレビや新聞で何となく世の中が分かった気になっていますが、それは断片にすぎません。タイの寺院にただよう線香の香り、メキシコ、マヤの大地にむき出した石灰岩のゴツゴツ感、ヨルダンの砂漠の乾いた空気が、

テレビでは伝えきれない事が世の中には一杯で、そんな現場に立つこそ人生観は変わります。

NHKの放送のブラウン管の向こうはそんな「出会い」にあふれています。ドキュメンタリー、スポーツ、福祉、サイエンス、ドラマ。公共放送ならではのジャンルの広さは「出会い」の多さです。マスコミは情報の波にもまれる仕事のように見えますが、個人個人の制作者はそんな感動をかみしめながら仕事をしています。もし皆さんが企業選別に迷うことがあったら、「出会い」という観点から仕事をみつめてみてください。

挑戦

テレビ東京

熊谷正樹 (99年・法)

マスコミを目指す後輩達へ: 「先んずれば人を制す」という格言が必ずしも当てはまらないのが就職活動。とりわけマスコミはその色彩が強い業界といえます。しかし、何事もスタートが肝心。早いスタートは、心の余裕を生み、自分が見えていなかった部分や目を背けていた部分を気付かせてくれます。ですから、できるだけ早くから自分にとって就職とは何か、自分のやりたい仕事、業界とはどんなものか調べておくとういと思

います。その際、先輩方を頼りにお話を聞くのもよいでしょう。日々の過ごし方としては、テレビのニュースを見たり新聞を読むなど、様々な事象にアンテナを張り、社会に対し、そして自分に対して常に疑問とそれを解決するための建設的な意見を持つて欲しい

ています。就職活動



TV志望の学生へ

テレビ東京

日高充 (78年・農)



動を大いに楽しんで下さい。と思います。面接の際、マスコミを受験する学生は往々にして素晴らしい評論家ではあるのに、いざ実践的な意見を求められると途端に消極的になったり、しどろもどろになるといったケースが多く見受けられます。分かる範囲でいいので自分の意見を持って下さい。また、学生の皆さんには、覚えて欲しいことがあります。それは、採用する側もされる側も本来は対等であるということです。ともすれば、その原点を見失いがちになり、企業側に迎合、盲従してしまう学生も多くいます。一入

れて下さい」という弱気なスタンスは捨てた方が賢明です。就職活動は、高学歴だったり、俗にいうコネがある者が勝つとは限りません。勝った者が強いのです。とにかくエントリー無くして受験機会はありません。人から、学業との両立を図り、機会と時間を能動的に使いながら自分らしさを大切に頑張ってください。自分らしさを削る必要はありません。同じマスコミ人として、ジャーナリストとして現場でお目に見られる日があることを楽しみにしています。就職活

動を大いに楽しんで下さい。と思います。面接の際、マスコミを受験する学生は往々にして素晴らしい評論家ではあるのに、いざ実践的な意見を求められると途端に消極的になったり、しどろもどろになるといったケースが多く見受けられます。分かる範囲でいいので自分の意見を持って下さい。また、学生の皆さんには、覚えて欲しいことがあります。それは、採用する側もされる側も本来は対等であるということです。ともすれば、その原点を見失いがちになり、企業側に迎合、盲従してしまう学生も多くいます。一入



聴講者で満員の就職セミナー

マスコミ、特にテレビ局を志望する学生は、もう既に試験の真最中であったり、間近に迫る試験に向けて、様々な準備や思いをめぐらせているのではないかと思う。では、テレビ局受験の対策に、何が基本的に大事なのか自分なりの考えをまとめてみた。

まず総論として、現在のテレビ業界は白黒テレビがカラーに変わった時以上の大きな変革期を迎えている。デジタル放送、マルチメディア、インターネットの参入など、テレビを取り巻く環境を考えると、せいぜい3年位先の予想はできて

も5年先のテレビ業界についての予想は非常に困難である。そんな大きな変革の渦の中、柔軟な発想と姿勢を持ち、予期しえない多くの困難を乗り越え主戦力となれる心身ともにタフな人材が必要とされていると思

う。次に具体的な対策として、簡単な

事のように意外にできていないのが「面白くない」としたら、どこがどう面白くないのか、深く掘り下げて自分なりに分析する。そしてもし自分がその番組の担当ディレクターだったら、どう構成したいのか。アナウンサー志望であれば、どういう司会、進行、リポートをやりたいのか、具体的かつ簡潔に伝えられることが重要だ。つまりテレビ局という組織の中でどういう仕事したいのか、制作、報道、スポーツ、アナウンスそれぞれの分野で自分なりにどの番組をどういうテーマでどう構築したいのかなどを整理し、わかり易く伝えられる準備をしておくことが重要だと思

熱い想いを

テレビ朝日

飯村真一 (89年・法)

先日、慶應大学の講義をお手伝いする機会がありました。テレビ朝日の同期入社の女性が退社して大学院に進んだあと慶應大学で講師をしており、話をして欲しいと頼まれたからです。その講座自体はメディアについて論じるもので

先日、慶應大学の講義をお手伝いする機会がありました。テレビ朝日の同期入社の女性が退社して大学院に進んだあと慶應大学で講師をしており、話をして欲しいと頼まれたからです。その講座自体はメディアについて論じるもので



ですが内容は自由に任せるとの事で、私は三田校舎に行き、これまで私がかしてきた仕事とそこで感じたことなどを一時間ほど喋りました。中には寝ている学生もいました。が、ほとんどは真っ直ぐこちらを

見て真剣な表情で聴いていました。そして、質疑応答の時間になると、次々に質問の手があがります。その中には「伝えるべきものと視聴率の関係」「これからテレビ業界が進もうとしている方向」など、こちらが面接試験で投げ掛けたようなものも数多くありました。それを聞いて私は、就職活動のためにいま何をすべきかという段階を経たあとに深くその業種を考えている、既に意識の段階で次に進んでいる、という印象を彼らに持ったのです。

高校は大学の予備校ではなく、大学も就職活動の為に存在するわけではありません。ただ、その成果によって高校や大学が評価される面があることも否定できない事実です。学生の实力に見合った正当な成果を出すためにも、理想に燃える明大生の想いを実現させてあげたい。そう強く思いました。

アドバイスの継続

毎日新聞社 黒木 俊行 (97年・経営)



今回初めて講師役として参加し、多くの学生達の熱意をとて強く感じました。参加した学生が一人でも多くマスコミへと入社し、後

輩達へ良きアドバイスを継続してくれたら嬉しいことです。私は入社10年目を迎えますが、自分自身の就活体験を振り返ってみると、やはり学生が考えている

「不惜身命」

光文社

米澤 仁次 (86年・経営)

「これ以上部数を落としたりならファインナルだ」との担当役員の命を受けて、写真週刊誌『フラッシュ』の編集長の任に就いたのは1年半前。そのとき、はじめて正確な現状(数字)を把握するのだが、正直惨たんたるものだった。

平常号の発行数は31万部、粗利益が年間2億円、1号当たり換算すれば450万ならず。完全赤字になれば、即座に休刊の断を会社はくだす。つまり待ったなしで改革しなければ、編集部はもちろん自分にも明日はないのだ。やったことは、二つ。流行の言葉でいえば、ディスクロージャー

イメージと実際の会社生活は異なっていました。現在はインターンという手段もありますし、こういった機会は人生においてまたとないので多くの先輩方にお会いし、イメージとのギャップを埋めること

大切で、そして面接時のコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を高めることが出来れば可能性が広がると思っています。

今回セミナーにおいて模擬面接を受けた学生と後日話す機会があり、「大変緊張したが、きっと本番当日もあの様な雰囲気なのでしょうね。」と語っていました。

学生の皆さん、出来るだけ多くのOBに会って人に強くなってください。またOBの皆様も機会がありましたら可愛い後輩達への暖かいご支援をお願いいたします。

(情報公開) とアカウンタヒリティー(説明責任)だ。フラッシュは80人くらいのスタッフで作られているのだが、その全員と個人面談を敢行した。本来ならば編集長以上でしか知り得ない情報(数字)をすべてさらけ出し、納得いくまで



トコトコ話し合い、その上で各々の個人目標を設定した。「なぜ、変らなければならぬのか」から、「自分を変える」と宣言した者だけが残ったのだ。

そして現在、平常号は36万5千部、年末合併号は56万部(前年度49万5千部)まで回復した。予断

は許さないが、年間利益も3倍以上にはなりそう。実売部数の伸び率だけは、間違いなく週刊誌ナンバーワンである。

週刊誌の編集長は、小(零細)企業の社長に似ていると思う。いくらカッコイイ理念(編集方針)を掲げても成績は上がらない。むしろ泥臭く地べたを這いつくばってナンボの商売。小生が率先してこそ部下はついてくる。さらに

ちばんの課題は、組織の個々を飽きさせないこと。絶えずサブライズを与え、カオスの状態に組織を保ちたいのだが、なかなか難しい。不惜身命、いま切に諸先輩方から(もちろん後輩でも)教えを請

いたいと思う今日この頃である。

集英社

瀧口 宏 (91年・政経)



出版界に入って15年目になる。これまで多くの現役学生のOB訪問を受けてきた。また採用試験係となりエントリーシートを見た

面接官を務めたりしてきた。有難いことに毎年たくさんの方々が就職試験を受けにくる。しかしなせか明治大学の学生がなかなか入社してくれない。

よく学生たちに「出版社に入るためには、どんなことをすればいいのですか?」と聞かれる。私が

こんな刺激的な街はない!

勧めているのは、とにかく書店に足しげく通うことだ。その意味で明大生は、他大生と較べて圧倒的に有利な条件にある。

MMCセミナーでも話したことがあるが、明治大学は出版界を目指すには、これ以上ない実はずばらしい場所にある。校舎から一歩外に出れば、そこには日本はもろろん世界的にも希有な本の街、神保町がすぐそばにある。出版社、書店、印刷会社、取次など、出版

業界の要となる会社が皆揃っている。そして新刊、古書を合わせ膨大な量の本。最先端のライトノベルと数百年前の貴重な本が、同じ通りに軒を並べる書店で売られている。こんな刺激的な街はない。いわば街自体が日本の出版文化の巨大なデータベースなのだ。

私自身、学生時代も含め17年間をこの街で過ごしてきたが、いまだに飽きることはない。毎日神保町の書店街を歩き回るのが楽しくて仕方がない。この街からアイデアをもらうこともたびたびだ。

作文や一般常識も大切だが、明治の学生諸君には、この街を大いに利用してもらいたい。本好きにはたまらない毎日はずだし、またしてや出版社を目指す人にはたくさん

さんのヒントが転がっている。

出合いが嬉しい

光文社

鈴木 一人 (95年・文)

大学時代、出版社に就職したいとは思っていたのですが、同時に、会社の傾向に自分をあわせて「気に入られるようにしたい」と考えることに強い抵抗を持ってしま

た。今でも似たようなことは考えていて、興味深い人たちと面白い仕事をする機会に恵まれるのであれば、相手の出身大学がどうであれ、所属している会社がどうであれ、あまり関係がないように思っています。でも素敵な人と出会った時に、その人と出身大学が同じだったりしたら、親近感が湧いて楽しくなるのも事実ですよ。

現在放送中の『ウルトラマン』シリーズの最新作『ウルトラマンメビウス』で直木賞作家の朱川湊人さんにシナリオを書いてもら

た。そして、生意気にも自分が卒業した大学のイメージづくりに貢献できないかと思いついたのです。このようなプロセスを経て、大

学に恩返しをと思いつきました。しかし、広告業界にいるからといって、某大学のように、アイデンティティを刷新し、新しいロゴデザインにしましようにと大仰な提案をすることではなく、もっともっと足元から大学に貢献できることがあるような気がし、昨年からセミナーに参加させていただきました。

できるかまだ具体化していませんが、ただ自分らしく心を込めてできることをコツコツとお手伝いしてゆきたいと思っています。

私の好きな「教学相長」という言葉があります。教えることは、学ぶこと。教えるながら学び、お互いに成長していこうという言葉です。こんな気持ちで、学生さんにアドバイスすることや就職課の皆様のお役に立つことなど、少しでもお力になりながら、私も成長させていただけたらと思います。

「教学相長」

アサツー デイ・ケイ

吉井 章夫 (84年・政経)

広告業が楽しくて楽しくて、毎日充実した日々を過ごしております。まさしく広告業は、私にとって天職でしょうか?

楽しいあまり、仕事に没頭してしまっていました。「仕事は卒業大でも勝負するのではなく、あくまでも個人資質で勝負」と思い続け

た23年だったのかもしれない。明治大学にはネガティブなイメージを持ち、大学名は伏せて仕事をしていたような気がします。

ところが昨年、気持ちや視点が変わり始めました。こんなに素敵な職業に就けたのも、明治大学での出合いがあったからと当たり前のことを素直に思えるようになったからです。こんな素晴らしい職場や業界をなんとか多くの

人に入られるようにしたい」と考えることに強い抵抗を持ってしま

企画を手がけています。朱川さんによる小説版『メビウス』も間もなく光文社の雑誌で連載される予定。電通と円谷プロダクションと中部日本放送の各担当者の理解と、朱川さんを初めとした多くのクリエイターの方々の熱意によって、幸い注目を集めています。

私のアイデアを面白がってくれて、企画実現のために各所において、奇しくも明治大学のOBでした。そういう出合いが、またあると嬉しいなと思っています。

た。そして、生意気にも自分が卒業した大学のイメージづくりに貢献できないかと思いついたのです。このようなプロセスを経て、大

学に恩返しをと思いつきました。しかし、広告業界にいるからといって、某大学のように、アイデンティティを刷新し、新しいロゴデザインにしましようにと大仰な提案をすることではなく、もっともっと足元から大学に貢献できることがあるような気がし、昨年からセミナーに参加させていただきました。

できるかまだ具体化していませんが、ただ自分らしく心を込めてできることをコツコツとお手伝いしてゆきたいと思っています。

私の好きな「教学相長」という言葉があります。教えることは、学ぶこと。教えるながら学び、お互いに成長していこうという言葉です。こんな気持ちで、学生さんにアドバイスすることや就職課の皆様のお役に立つことなど、少しでもお力になりながら、私も成長させていただけたらと思います。

た。そして、生意気にも自分が卒業した大学のイメージづくりに貢献できないかと思いついたのです。このようなプロセスを経て、大

学に恩返しをと思いつきました。しかし、広告業界にいるからといって、某大学のように、アイデンティティを刷新し、新しいロゴデザインにしましようにと大仰な提案をすることではなく、もっともっと足元から大学に貢献できることがあるような気がし、昨年からセミナーに参加させていただきました。

できるかまだ具体化していませんが、ただ自分らしく心を込めてできることをコツコツとお手伝いしてゆきたいと思っています。

なんじゅうもどく

博報堂

佐久間 英彰 (99年・理工院)

講師歴9年、広告セミナー参加者は年々増えているみたいで、これもMMCの方々の長年の努力の賜だと思えます。そしてそんなすばらしいフィールド上で講演できることを感謝申し上げます。できれば自分だけの講演会の方が欲しいです。まだまだ学生に言いたいことはいっぱいあります。正直30分では足りません。

さて前置きはこの辺にして、僕がどんな風に学生を応援しているかをお話しします。

●メール添削は他大学を含め約50人。今までは個別に自己PRの添削していました。1字1句、言葉の使い方から、全体の構成、他文とのリンクづけなど懇切丁寧に。こんな調子なので、いつも文字量が2万字位になります。さすがにきついので、メールリストにして学生全員に添削文を送るようにしました。利点は他の学生の自己PRを読むことで客観的になり、自分と照らし合わせられること。好評です。(学生了解済、個人情報配慮)また就活の心得やオトク情報、面接テクニック、学生からのQ&Aも配信しています。そして、このML上で学生同士が自発的に情報交換をしてくれるようになります。僕は僕が楽になります。

●OB訪問は時間の許す限り受けており、他大学を含め約30人。すべての学生に足を運んだなりの特典満載3時間コースを実施しています。例えば学生に勧めている

年表の作り方。自己PR・志望動機の書き方。学生時代に書いた非公開の就職体験談の冊子(10万字)。学生時代の手作り履歴書。想定質問集。クリエイティブテスト集など。もちろん学生の過去とも深く向かい合い、どこを取り上げどう書いたら生きてくるかなど話し合います。他にも学生を10人くらい呼んで、会議室で全員の自己PRの添削を一気にした事も。さすがに5時間喋りまくり酸欠状態にやりすぎたと反省しています。

時々、今までの添削文や就職体験談を本にしたらいくらになるだろうかと思っています(出版社の方をお話待っています)。基本的に言う

戦略的セミナーを

テレビ朝日映像

惣部 潔 (85年・法)

今年のマスコミセミナーは盛況でした。昨年までは「もういい加減出なくてもいいかな」などと考えていたのですが、満席の会場を見て考えが変わりました。正直、現役学生の前で話をするのはとても面倒なのです。特に私が所属する番組制作プロダクションは、実際に就職戦線が始まらないと、NHKや民放局との区別もつかない人が多数。この時期にわざわざ手間かけても反響が少なくなります。

ところが実際に就職するとすると、かなりの人数になっっているはずなのですが、その頃にはセミナーなんてやっていませんから、学生との接点は結局無いままで終了。制作プロダクションの就職セミナーとしてやるなら、やはり3月以降

ことは毎年変わりませんが、変えなくても十分な内容です。これで基礎はたたく込んだので、後は自分で何かをつかんで動けないようではマスコミは無理だという気持ちも込めています。

なんでここまでするのかと言われますが、理由は、学生時代に就職課の人やOBがここまでやってくれたからです。先輩から受けた恩を後輩に返す、当たり前の行為です。そしていつの日か学生が似たようなことを望んでいきます。もう一度言いますが、僕だけの講演会のを待っておりません。すべては今後のMMC、ひいては明治大学の発展のために。

ありていと言えば、就職セミナーは、1人でも多くの学生をその業界に送り込む為のもの。学生は希望の仕事の出来る会社に就職したい。われわれは入社して行く新人が明治出身だと便利だ。明治同士だからと言って何も始まらないかもしれない。だったら、とりあえず数揃えておけという事です。面倒くさくなくなると、今度はもっと成果を上げたくになります。会場にいる学生をウチの業界にたくさん入れたいという気持ち。なら、どうすればいい。壇上の講師と学生の関係のままで駄目です。もとより筆記試験より面接重視の業界ですから、ここは模擬面接セミナー大会しかないでしょう。確かに大変です。セミナーで10分話すが「面倒くさい」と言っただけです。主催者の皆さんはもっと大変でしょう。会場は？面接官

好きな事を仕事に

東宝

多田 潤一郎 (93年・政経)

私の就職活動のポリシーは、「好きなことを仕事にする」でした。映画と音楽が好きだったので必然的に映画会社とレコード会社中心の就職活動となりましたが、とにかく募集人員が少ない。大体の会社で「若干名、つまり2、3人しか採用しません。狭き門ゆ



え(自分も未熟でした)なかなか内定が貰えず、すでに大手メーカーなどに内定している学友からは「夢を追いかけて過ぎ。現実的になれ」などと既にサラリーマン的な意見を頂戴しながら面接を繰り返す毎日でした。

ただ、今年ダメなら1年留年して就職活動する覚悟は決めていました。やりたい仕事を決めるのに2年かけてもいいじゃないかと思っただけです。結局は留年することなく内定を貰えたのですが、自分のやりたい仕事に就くまではあきらめない強い気持ちで就職活動を行っていました。

持った方が少ない様に感じました。それは今に始まった事ではないのかもしれないが、「第二新卒」と言われるくくりも出来る程、企業は人材を必要としています。そんな時代だからこそ「ココでなくても」という思いが熱意に反映されてしまうのではないだろうか。

私が就職活動生にコメントさせて頂くとすれば、絶対という事は世の中にありません。つまり、絶対に不可能」という事は世の中には存在しません。意思を貫き通して欲しい。諦めなければなんとかなるものです。

実際、私がこの会社に入社出来ましたが、エンターテイメント性があるとか云々より、「何がなんでもホリプロに入りたい」という意思があったからこそ、はい上がってこられたのだと思います。あとは、社会に適応するだけの一般常識は身につけて来て下さい。特異な業界でこそ常識人であって欲しいです。意思と常識です!

不可能は存在しない

ホリプロ

林部 宏子 (05年・商)

初めて「制作エンターテインメントセミナー」で学生の皆さんにお話をさせて頂きました。3年前のセミナーが私の就職活動の第一歩になった事を思い出します。

セミナーでは、皆さんの熱意は伝わって来ましたが、「必ずや勝ち取る!」と言う強固な意思にも沢山参加して頂きたいです。

マスコミ就職セミナーのお問い合わせ先

担当理事 澤田慎介まで
Eメールアドレス s.sawada@k7.dion.ne.jp

いつの日か

テレビ朝日

浦田 幸毅 (06年・法)

はじめまして、10チャンネル1年目☆新人・浦田幸毅(ウラタコウキ)です。苦しい就職活動を乗り越え、06年4月に晴れてマスコミと呼ばれる世界に入りました。アルバイトばかりして非常に不真面目な学生だった自分を拾ってくれたテレビ朝日の男気について報いようと、日々精進してま

員会中！ 人闘新

今年からマスコミ界で活躍しはじめた新人会員たちの近況は…

いつか1発あててみせます！
さて、簡単に近況報告を。今自分分は番組VTRを事前モニターし、放送データを作成する仕事をして

- 最近、流行りの「脳トレ」です。先週の昼食を思い出してみます。
- 月：会社のカフェのサンドイッチとコンビニの杏仁豆腐
- 火：同じくカフェのデリバリーメニュー、トマトソースの Pasta
- 水：収録でいただいたお弁当「さわらの香草焼き」
- 木：社食の黒酢の酢豚定食
- 金：ファミレスで海老ときのこの和風 Pasta
- 土：自宅で牛肉(シンプルに焼いたもの)とご飯

います。といっても、他業種・学生の方には意味不明だと思います。私自身テレビ局に入るまでそんな仕事があるなんて思ってもいませんでした。身近な存在といえるテレビですが、テレビ局の会社自体はほとんど知られていないんですよ、実際。入社直後はこんな部署があるのか！と度々感心したものです。(自分の入る会社のことくらい調べろって感じですが…)



とにか、テレビ局って部署の多いところなんです。テレビの仕事といたら報道や番組制作くらいしかイメージされませんが、実際のところほとんど知られていない職種が半分以上占めている感じがします。営業・広報・技術など有名どころの他にも事業・テープ管理・編成など数え切れない程たくさんの部署があります。職種が多い会社に入れたのは、

一生懸命にやれば

TBSラジオ

川原 雅史 (06年・文)

自分のポテンシャルを狭めずにするという点でラッキーだったと思います。10年後、20年後の成長を見越してじっくりキャリアプランを練り、いつの日か名の知れたテレビマンになってみせます。

一社のみの決め打ちエンタリ、人呼んで「バクチ就活」を終えた私。そんな新人が配属されたのは、意外にも、放送局の中核である編成部だった。自分のマスコミ人生はADからスタートするものとはかり思っていたので、カジュアルな服を買い揃えていた。それがまさかスーツでの出勤になろうとは。配属されて1週間は「編成」などという掴みドコロのない部署名のせいで、何から始めて良いか皆目見当が付かなかった。しばらくすると、どうやら「放送」をより良くしていくために、攻めたり守ったりするセクシオンらしいと気付いた。そこからは、名実ともに



たのか。なかつたのです。【天才！カンパニー】の共演者の小木さん(おぎやはぎさんの背の高い方)のリクエストで、この日は魚3種類のお弁当が用意されていました。木曜日は毎週【NFL倶楽部】の収録日です。私が進行役を務めている、アメリカンフットボールの番組です。気分はアメリカン☆でも、収録前には炭酸ジュースは我慢します。酢豚定食もポークランチのつもりで食べました。

「No.1ステーション」TBSラジオ95.4を全身全霊で目指している日々。放送のことを知らない、まったく仕事にならない。月曜朝から会議また会議の連続。早朝出勤も深夜呼び出しもあれば、先輩社員と激論を交わす日もある。一番辛かったのは、配属後3ヵ月で迎えた、10月の番組改編作業。放送のイロハもわからぬうちに、全番組の送出フォーマットを決めることに。当然作業も難航。連日どこかのセクシオンに叱られながら、何とか全番組決定。食事は毎日カップ麺、深夜タクシーでの帰宅。さすがに、精神的にやられてしまった。風の噂で聞いた「ギョーカイ人」像はそこにはなかった。しかし、改編を乗り切ると「放送」のことが色々見ええてきた。仕事が益々楽しくなってきた。そう、この感じ。大学の卒論提出前

●日：自宅でうどんとプリン
9月にレギュラー番組が始まってから、毎週このような食事をしていきます。標準的な新人アナウンサーの昼食です。「自宅で」とある土曜と日曜は私の公休日。少し手抜き気味ですが、食生活には気を遣っている方だと自負しています。水曜日の「さわらのお弁当」、なぜ肉好きの私がお肉を選ばなかったのか。なかつたのです。【天才！カンパニー】の共演者の小木さん(おぎやはぎさんの背の高い方)のリクエストで、この日は魚3種類のお弁当が用意されていました。木曜日は毎週【NFL倶楽部】の収録日です。私が進行役を務めている、アメリカンフットボールの番組です。気分はアメリカン☆でも、収録前には炭酸ジュースは我慢します。酢豚定食もポークランチのつもりで食べました。

お昼ご飯

日本テレビ 葉山みゆきエレノ(06年・政経)

メイクと打ち合せの合間にすぐ食べられる食堂はとても助かります。(時々食堂のお母さんがヨークルトを内緒のオマケで付けてくれます。)本番前の緊張を高い所にいる緊張に置き換えて、気を紛らわす為に窓際の席に座ります。台本を見て収録を想像し、シミュレーションをしながらの食事です。【NFL倶楽部】は毎週金曜日深夜2〜3時頃に30分間放送中です。健康第一で明るい下積み頑張っています。

の雰囲気。文学部で地理学を専攻していた私は、随分と自由に卒論を書かせてもらった。趣味の軽音楽と地理学のコラボレーション。毎晩徹夜での作業。眼の下にクマを作りながらも、達成感でいっぱい夜明け前。あの極限状態を経験してきたか否かは大きいと思う。

明治大学が、私を野放しで飼ってくれていたことに感謝している。好きなことを好きなだけ出来るフィールド。やったもん勝ち方式健在。何でも良い、とにかく一生懸命にやれば何かを得られるし報われる。その「明治魂」は今も私の中に残っていて、役立っている。

蛍火を手にとる

友森 美沙子 (06年・大学院)

それは小さくて、今にも消え落ちそうな蛍火でした。さて、これからの人生はどこへ向かい、何を求めてゆくのか。数年前の木枯らし吹く季節。岡々と毎日を作り過ごす私に活力を与えてくれたものは、映画・ドラマ・小説などから伝わる人間の生き様



「こんな人、世の中にいるわけじゃないよ!」「こんな展開、実際あるわけじゃないよ!」
創作物に触れていると、必ず出くわす場面です。それでも、フィクションを好むのは、私たちがヒトであり、ヒトが好きだからであると考えずにはいられません。はじめてMMCに出会ったのも、こんなことを考えていた頃でした。普段は引込み思案な私ですが、この小さな小さな火に、次から次へと燃料を継ぎ足して下さる先輩の方々・仲間がここにはありました。ヒトを好きな方々の集まりであるということが、さらに私の心を強く惹き止めました。

そして、一歩進んでは半歩下がる執筆活動を、あの頃から変わらずやっております。ときにフィクション、ときにノンフィクションですが、どちらにせよ、思いがうまくことばに乗って表に出てくるときには、心の中で「いつだってっしやい」と手を振っています。さて、蛍火から焚き火に、焚き火からメラメラと燃えさかる炎となる日は、近いのか、遠いか…。MMCの方々にご助言を頂戴しながら、人々の心を温めるものを創り続けたいと思っております。

タイムリーな テーマが好評 MMCセミナー

「建設における安全・ 安心問題を考える」

(7月18日開催)

明治大学理工学部教授・同学部長の向殿政男氏を講師に迎えての開催。6月3日に都立高校2年生の男子生徒が港区にある公共住宅のシンドラー社製エレベーターに挟まれて死亡するという痛ましい事故が起きた直後にこのセミナーが行われた。連日、事故の経過が新聞、テレビ等で報道され、向殿氏もコメントとしてマスコミに頻りに登場していた。それ以前にも耐震偽装問題、回転ドア事故などが世間の注目を浴びており、真にタイムリーな企画であった。

向殿氏は明治中学、明治高校を経て明治大学を昭和40年に卒業、明大大学院博士課程を修了し工学博士となった生粋の明治マンである。しかも江東区立明治小学校の卒業という嘘のような本当の話。専門は情報学、安全学、論理学。現在、国交省社会資本整備審議会専門委員を筆頭に安全問題に関する数々の委員を歴任、その分野における日本の第一人者だ。

セミナー会場は向殿先生を取り囲むように、あらかも昔大学のゼミナールで先生から講義を受けるようにセッティングがされた。セミナーの内容はパワーポイントを使いV食品の食肉偽装と隠蔽問題、M自動車のリコール隠しに始まる一連の安全に関わる事故を解説した後、事故は何故起きるのか、問題点はどこに潜んでいるのか、事故後、企業はいかに対応したのか、またその対応は適切であったのか、など鋭く指摘された。

「デジタル放送とアナログ停波！」 「そのままではテレビ 局がなくなるかも…」

(12月5日開催)

ハイビジョン、データ放送、多機能、多チャンネル、視聴者にはいいことずくめのデジタル放送ですが、ビジネスでみるとテレビ業界の将来に多くの不安を抱えたものになるとのことです。今のアナログ放送は2011年7月までに停止され、その後テレビ電波は全てデジタル放送に切り替わります。我々は今のテレビにデジタルチューナーをつけるか、デジタル機能内蔵の受像機を買わなければならない。

一方、テレビ局は、テレビ塔からのデジタル電波発信設備、スタジオカメラ、中継機材、撮影機材など全てを一新しなければなりません。設備投資額が1社平均30億円とも50億円とも言われ、東京、大阪、名古屋など大規模局はまだ余裕がありますが、地方局には、なんとともショッキングなタイトルですが、講師は日本テレビ・メディア戦略部の中野健介さん(88年・政経)。12月に始まったデジタル放送の全国展開を機に、これからのテレビ業界の動きを詳しく話してくれました。会場では学生30人を含め70人が熱心に耳を傾け、久しぶりの大盛況でした。写真。



ハイビジョン、データ放送、多機能、多チャンネル、視聴者にはいいことずくめのデジタル放送ですが、ビジネスでみるとテレビ業界の将来に多くの不安を抱えたものになるとのことです。

前日までの雨模様で幹事として一番気になる天気でしたが10月26日は朝から快晴。参加者の日頃の心がけのおかげだと思つづく感じがしました。腕はともかくとして本場に皆さんゴルフ人格者ばかりで格調の高い楽しい集いでした。コースは堀威夫顧問のホームコース、千葉「グレートアイランドG」というすばらしいところで、例年「伊藤園女子プロトーナメント」が行われるところで、翌々週にこのトーナメントをひかえ、コースコンディションは最高。フェアウェイは広く、芝は正に絨毯。距離も白くいでやっただけで余り長くないので余り長くなく入を求めて携帯電話、ゲーム機、機内放送などへのコンテンツを配信して利益を上げようとしています。やがてテレビ局の統合や再編につながるかもかもしれません。というの講演の主旨でした。テレビ局が、容易ならざる局面に立ち至っていることを実感した講演でした。

木村会長が「満点」優勝 06年度秋季MMCゴルフコンペへ

お気遣いといえ、今回も武内裕さんより清水焼きの大皿と湯吞一対を賞品として寄贈して頂き、優勝、準優勝者に贈呈。武内さん本場に有難うございました。コンペにも今回は参加してくださいね。堀顧問からはグレートアイランドコースでのスタート取りやプレー料金割引交渉、特別無料プレー券3枚などのご提供をしていただきました。お陰で全体的に安くプレーができました。また、コース付属の豪華ホテルの無料一泊券の賞品提供も賜りました。堀さん、いろいろお世話になりました。

次回(火)に「観桜ごるふ」3月27日(火)に「観桜ごるふ」として相模CCで行います。奮ってご参加ください。次回の幹事はベテラン堀部太郎副会長です。お申し込みは堀さんへどうぞ。



正直度、実力共に満点で優勝杯を手にした木村会長

MMC 秋季ゴルフコンペ成績表

順位	氏名	グロス	ネット	申告	正直度
優勝	木村 武	116	96	96	0
2位	猪野 慎吾	87	83	82	+1
3位	大西 敏勝	93	93	88	+5
4位	堀村 博史	96	91	86	+5
5位	野村 義臣	104	98	90	+8
6位	竹下 光治	132	103	105	-2
7位	久保田 耕平	100	93	96	-3
8位	中根 薫	87	81	85	-4
9位	中宮 本	88	80	84	-4
10位	茂木 達郎	89	87	91	-4
11位	堀 威夫	84	77	82	-5
BB	千田 正穂	118	99	105	-6
BM	大林 龍彦	118	100	110	-10

●Eメール
elm_iku_nine@yahoo.co.jp
●J・W・トンプソンOB・猪野慎吾 66年・文